

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	3	14	6	19	9	28	31	0	9	総調査ほ場数: 65か所 総調査株数: 1,625株 (調査株数 25株, 調査花数 100花)
	本年平均値	4.6	21.5	9.2	29.2	13.8	43.1	47.7	0.0	13.8	
	平年値	3.0	19.0	6.5	6.4	4.6	48.9	43.2	0.0	30.9	
	(本年平均値/平年値) × 100	153.3	113.2	141.5	456.3	300.0	88.1	110.4	-	44.7	
	発生程度	やや多	平年並	やや多	多	多	平年並	平年並	少	やや少	
株率 (%)	発生株数	0	9	7	3	7	207	133	0	36	○今月の病害虫発生状況○ ・灰色かび病の発生は平年並みです。 ・うどんこ病がやや多くなっています。 ・萎黄病の発生が例年より多くのほ場でみられています。 ・ハダニ類の発生は、一部で多発ほ場が見られますが、平年並みの発生です。 ・アブラムシ類の発生が例年より多くのほ場で見られます。
	本年平均値	0.0	0.6	0.4	0.2	0.4	12.7	8.2	0.0	0.6	
	平年値	0.1	1.5	0.4	0.1	0.5	17.3	12.5	0.0	2.7	
	(本年平均値/平年値) × 100	0.0	40.0	100.0	200.0	80.0	73.4	65.6	-	22.2	
	発生程度	少	やや少	平年並	多	平年並	平年並	平年並	少	やや少	
概 評		平年並	平年並	やや多	多	やや多	平年並	平年並	少	やや少	

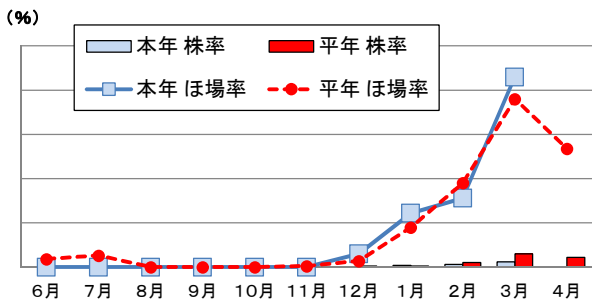


図1 灰色かび病発生ほ場率・株率

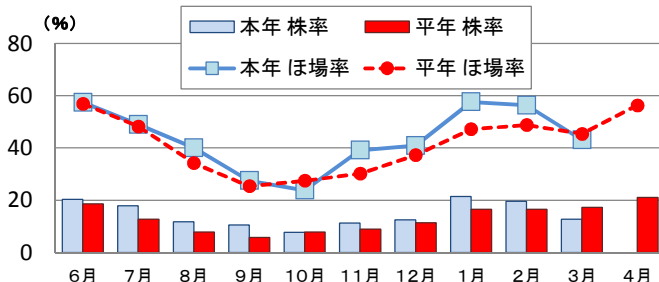


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

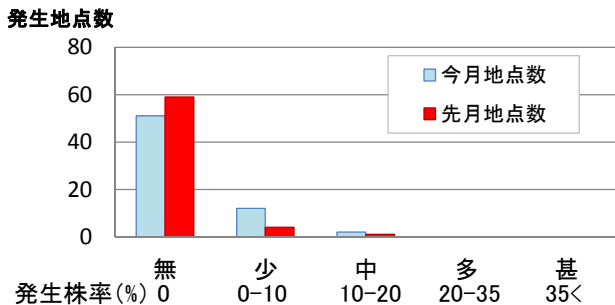


図3 発生程度別の地点数(灰色かび病)

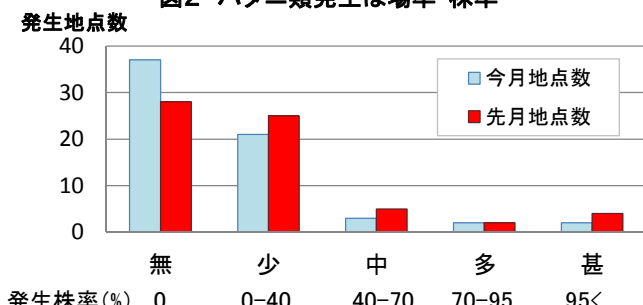


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○灰色かび病対策

- ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水は最小限にとどめる。
- ・発病部位(果実、果梗等)は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・予防を主体にダイマジン、カンタスドライフロアブル等を散布する。
- ・微生物防除剤(ボトキラー水和剤等)は発病前～発病初期に利用する(使用時は、施設内10℃以上確保)。

○ハダニ対策

- ・ハダニ類は下葉の裏に多いので、必要に応じて葉かきを行い、薬剤が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。
- ・天敵製剤の放飼前には、必ず一度ハダニ類を防除して密度を下げる。また、薬剤は天敵に影響のないものを選択し、放飼後も1～2週間は薬剤散布しない。
- ・天敵を導入したハウスでは、ハダニ類が部分的に発生しやすい。部分的に糸が張るような場合には、気門封鎖剤をスポット散布する。
- ・天敵製剤は適宜追加放飼することで効果が安定する。



写真 果実の灰色かび病

○今月の技術情報(技術指導班)○(3月)

現在、うどんこ病、アブラムシの発生がやや多くなっています。
 3月に入り、周期的に天気に変化する中、気温の上昇や降雨の影響により、灰色かび病やハダニ類、アザミウマ類の増加が懸念されます。また、株が繁茂してきますので、不要な下葉等を順次取り除いて風通しを良くし、薬液が葉裏にもよくかかるように薬剤防除することが重要です。
 親株は病害虫の発生がないかよく確認して定植しましょう。活着後はわき芽、下葉かきなどの管理作業とともに、ハダニ類などの発生にも注意が必要です。昨年は、炭疽病、萎黄病の発生が多くなりましたので、同じ資材を使用する場合には、事前にはしっかり消毒を行いましょう。